

三菱UFJフィナンシャルグループ株主の皆さんへ

総会参加ご苦労様です。

本日の総会に向けて、銀行で働く労働組合員のひとりでもある株主から出された質問状をご紹介します。

定時株主総会での質問書

日本のトップ金融機関である当社が、社会的責任を果たしてほしい。多くの株主・従業員・取引先の関係者の皆様の共通の思いかと考えています。

① 中小企業等地域に根ざした取引先に対し、国内経済強化の方向で支援を

長引く不況の中で、日本経済の活性化に向けて中小企業含む国内融資の増額のための施策を明らかにされたい。

銀行も協力して多くの企業が海外へ事業進出などを進める状況のもとで、国内の設備投資含めて資金ニーズの後退が見られます。地道な伝統産業、地域に根ざした生活関連の福祉医療分野の産業、環境自然に関与した産業、文化に関するサービス産業などへの具体施策はあるのか。

また、金融円滑化法に基づく返済条件変更に応じた企業の事業計画で、計画通り進んでいない企業も、経営者の意欲があるところには、銀行情報を駆使して長期的な視野で計画づくりに協力するなど、中小企業向け貸出の増額を目指す努力の現状を明らかにされたい。



② 非正規労働者への理不尽な差別扱いの改善を

長引く不況の大きな要因のひとつとして、過去15年間、先進諸国の中で、日本の労働者の賃金収入だけが唯一下がり続け、年収50万円以上の減収となっていることが、政府統計でも報告され、経済評論家をはじめ、国会討議の中で安倍総理も認めているところである。

三菱UFJフィナンシャルグループは、内部留保を8兆円以上計上し、さらに今期も5千億円以上の積み増しをしている。

銀行の説明によれば、預金と貸金の利ざやが減少し、構造的に課題を抱えているとはいえ、継続的に5千億円以上の利益を出していることから、労働者への賃上げ等の積極的な増額、特に非正規労働者への差別的処遇の改善を図り、全従業員のモラルアップを図る展開が必要と考える。

差別的な実態の一例として、正行員は昼食手当の補助があり、同じ食堂で食べるカレーなどの正行員価格が350円であるメニューが、賃金の低い非正規の労働者は逆に550円の価格で購入させられたり、公共交通機関の延着証明書によって、行員は賃金カットがないにもかかわらず、非正規労働者は「遅刻扱い」として、時間に応じて賃金カットをされる差別扱いがなされている。このような点からでも改善を進めることは、参加された株主の皆さんの理解が得られるのではないかと。

以上